

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年2月27日
函館市立旭岡中学校

1 本年度の重点教育目標

自ら考え、判断し、表現できる生徒の育成

2 本年度の取組の重点

- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| ① 創意・工夫された教育課程の編成・実施
② 生徒の実態および地域性を生かした教育計画
③ 学びの基礎を担保する教師力向上
④ 報告・連絡・相談・確認と危機管理の徹底 | ⑤ 家庭・地域との連携・協働
⑥ 教育環境の整備
⑦ 服務規律・接遇マナーの徹底 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
育の推進 ① 確かな学力を育む教育	基礎的・基本的知識及び技能の定着を目指して、指導方法の工夫に努めている。	b	T.T.とテスト前学習キャンペーンをさらに充実させ、基礎・基本の定着を図る。	A	A	
	教科等の各領域を相互に連携させて適切に実施している。	a	各教員が、教科横断的な視点での一人一交流授業を実施した。	A	A	
	年間指導計画の評価と指導の一体化に努めている。	a	個に応じた指導と評価の工夫を行った。	A	A	
育の推進 ② 豊かな心を育む教育の推進	全体計画に基づき、学校生活全般を通じて、道徳的実践力が育成される指導の充実に努めている。	a	道徳の授業や行事準備などの時間を活用し、全職員が協力して心の豊かさを育んだ。	A	A	
	年間計画に基づき、教材研究を進めて、考え議論する授業にできた。	a	ICT活用の公開授業と、ICT研修を行い、指導の技能を高めた。	A	A	
	問題行動（いじめ等）の予防と早期発見に努め、適切に対応している。	a	早期発見・未然予防に全職員で努め、適切な初期対応をすることができた。	A	A	
育の推進 ③ 健やかな体を育む教育	保健指導、保健教育は計画的に行われている。	a	「性の講話」や「がん教育」など、成長段階に合わせた指導を行った。	A	A	
	全教職員による給食指導は適切である。	a	複数教員による安全で衛生的な給食指導を行った。	A	A	
	生徒指導関係(避難訓練・交通安全指導・非行防止教室等)の計画・実施は十分行われている。	a	外部機関との連携により、地域の実情や時勢に合った指導を実施した。	A	A	
育の推進 ④ 学校における指導体制	学校教育目標の具現化を図る手立てを立てて教育活動を進めている。	a	全ての教育活動で具現化を意識した取組を推進した。	A	A	
	学校における業務改善に取り組んでいる。	a	業務の効率化と、教育の質の向上に取り組んだ。	A	A	
	協働意欲を持って、職務の遂行に必要な報告・連絡・相談・確認に努めている。	a	情報共有を図り、「チーム」として機能する校内体制づくりに努めた。	A	A	
育の推進 ⑤ 家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	生徒や地域の課題・教育課題をふまえた学校教育目標（重点教育目標）である。	a	小学校・養護学校、学校運営協議会と連携し、目標達成に向けて取り組んだ。	A	A	
	生徒・保護者・地域から理解と協力を得られるよう啓発活動に努めている。	a	学校・学級通信、ホームページ等を活用し、情報発信に努めた。	A	A	・リコーダー部の活躍、校内掲示物等、落ち着いた学校である様子がよく伝わる。 ・あいさつに元気があり、生徒が生き生きと生活を送っていると感じた。
	学校運営協議会の取組を行い、学校・地域と連携した学校運営を推進している。	b	持続可能な活動内容や連携について引き続き方向性を探っていく。	A	A	卒所してからも遊びに来てくれたり、進路の報告に来てくれる子たちがいることで、素直に育ってくれていると感じている。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。

